

# 市民活動団体 応援コーナー

このコーナーは、毎月1日号で、市内で活動する皆さんの主催するイベントや会員募集を紹介するものです。

掲載申込みの詳細は、市ホームページをご覧ください。

☎広報情報課 ☎983・2620

三島市 市民活動団体応援

令和4年2月1日号への掲載の申込みは、12月21日(火)までに、広報情報課

✉kouhou@city.mishima.shizuoka.jp、FAX 983・2719

※2019年8月から掲載要項・申込用紙が変更になっています。確認の上、申込みしてください。

広報みしま	締切日
令和4年3月1日号	令和4年1月20日(休)
令和4年4月1日号	令和4年2月23日(休)
令和4年5月1日号	令和4年3月23日(休)



▲市民活動団体応援コーナー詳細

## 文化

### 伊豆中央高校

#### 第32回冬のコンサート

時12月24日(金)▶会場：午後5時▶開演：午後6時▶場アクシスカつらぎ（伊豆の国市古奈255）☎無料☎伊豆中央高校☎949・4771

### 知徳高等学校吹奏楽部

#### 第29回定期演奏会

時12月26日(日)▶開場：午後1時15分▶開演：午後2時▶場長泉文化センターベルフォーレ☎行進曲「富士の山」ザ・ヒットパレード2021など☎無料☎知徳高等学校吹奏楽部公式ホームページ申し込みフォームより▶<https://ws.formzu.net/fgen/S33641384/> ※後日、整理券郵送☎吹奏楽部顧問佐藤・日吉・高崎☎975・0080

## 映画上映会

### 「普通に生きる」「普通に死ぬ」

時令和4年1月10日(月・祝)①午前10時30分：「普通に生きる」②午後1時30分：「普通に死ぬ」☎生涯学習センター3階講義室☎重度の障害を持つ人とその家族がその人らしく生き、死ぬことのできる社会を問いかけます☎無料☎①②各先着50人☎☎前日までにアシストミル☎976・3432

## スポーツ・健康

### 伊豆八十八札所ウォーキングの会 会員募集

時令和4年1月11日(火)午前7時▶場三島駅北口集合☎伊豆半島一周約500kmの寺を毎月1回(第2水曜日)約2年間で歩きたずねる。往復はバス利用☎バス代☎20人☎弁当、雨具、タオル、履きなれた靴☎☎12月20日(月)までに渡邊☎975・9902

### 三島吹き矢同好会

#### 会員募集中!

男女年齢を問わずに楽しめます。見学・体験参加も随時受け付け☎月3回(土曜日午後1時～4時)☎市民体育館2階多目的室☎吹き矢の練習、毎回練習試合☎月500円☎☎渡辺☎971・4733、大嶋☎988・4840

## その他

### 静岡弁護士による「B型肝炎集団訴訟 説明会&無料相談会」

時12月11日(出)午前10時～正午、午後1時～5時▶場弁護士会館(沼津市御幸町24・6)☎開場での相談会と同時に電話相談も行っております(当日電話相談先☎054・255・1271)☎予約不要。当日直接会場にお越しください☎弁護士法人こだま法律事務所☎941・9750

## 保育のしごと出張相談会

時12月15日(火)午後1時30分～3時30分▶場ハローワーク沼津☎①ミニセミナー：保育指針や地域の保育事情②各種相談コーナー：保育士・保育所支援センターが実施する事業の案内、就職準備金案内など③保育事業所ブース出展：求人募集している事業所の出店、仕事内容・労働条件などの相談☎保育の仕事を探している、または興味のある人☎静岡県・静岡市 保育士・保育支援センター☎054・271・2110 FAX 054・272・8831

## 女性を対象とした支援事業に 応募してみませんか

「国際ソロプチミスト伊豆天城」は3賞を募集しています①女性のための教育・訓練賞20万円・アメリカ連盟賞受賞5,000ドル②大学院女子学生奨学金120万円③大学・専門学校女子学生※支援金、給付金額、対象など詳細はお問い合わせください☎☎令和4年1月10日(月・祝)までにアワード委員長・梶谷純子☎☎FAX 987・6960

新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図るため、掲載した事業を中止・延期または内容変更する場合があります。

# 歴史の小箱

## 学校教育のはじまり

No.403

今回は、三島の近代的な教育のはじまりと、それに尽力した人物を紹介します。

明治五年、政府は国家の近代化を目指す上で、六歳以上のすべての男女が小学校教育を受け、これを定めた学制を制定しました。これにより、三島ではそれまで伝馬所（問屋場）の跡を使っていた「開心庵舎」という私塾を小学校にしました。これが、三島の小学校のはじまりです。伊豆地方の中でも一番早くできた小学校となり、翌年の明治6年には、官立小学校の「三島黌」になりました。その学校の初代校長が吉原守拙という人物でした。就学率は全国平均に対して男子一・八倍、女子は三・六倍という高い状況でした。

なぜ、三島は政府の方針に早く対応できたのでしょうか。江戸時代、三島の町は東海道の宿場として非常に賑わっており、さまざまな文化や情報が往

来していました。当時の問屋場の跡地を使うことで、学校の建設にかかる時間と費用を少なくできたことが理由の一つとして考えられます。

また、三島には、江戸時代から東海道と下田街道を結ぶ地点を中心に漢学塾や寺子屋という私塾・家塾がありました。

三島は地の利を活かし、教育の下地や環境が整っていたこと、文化の交流地点であったことが大きいと考えられています。

吉原守拙は、文政二年（一八一九）駿河に生まれましたが、幼いときに父を亡くし、母親とともに伊豆の古奈（現伊豆の国市）に移り住みました。志が高かった守拙は、十五、六歳半ばで江戸に行き、漢学と兵法を修めた文武両道の達人でしたので、周囲からの評判も高く、守拙のもとには志ある青年が集まりました。中でも、幕臣の山岡鉄舟やのちに静岡県令（県知事）となる関口隆吉、薩摩の大山綱良ら政治家を門弟として輩出しています。

大政奉還後、三島へ移り、息子の吉原呼我や三島宿の指導者

らと手を携え、以後二十六年間、三島の教育の発展に努力しました。息子の呼我も教師となって父を支え、のちに現韮山高校の校長になりました。

守拙は、郷土の教育振興に努め、各小学校教員の育成にも携わりました。礼を重んじ、日常の挨拶もとても丁寧で、相手を慌てさせることがたびたびあったといいます。息子の呼我も社会的で暖かな人柄だったといわれています。

変革が求められた明治初期では、地域のため奔走した先人の情熱が郷土の学校教育を形づくりました。彼らは師弟からも大変慕われ、林光寺には吉原親子の顕彰碑が門下生により建てられています。



▲三島黌卒業写真（明治時代）（郷土読本「三島」2009年より）

## ぼくのおばあちゃん

当番 おぐら たいが さん

ぼくのおばあちゃんは、朝から夜まで清掃の仕事を頑張ってくれています。弟のお迎えや、ご飯を作ってくれ、届けてくれる。ご飯はどれも美味しく、特別におばあちゃんのハンバーグやオムレツが大好きです。おばあちゃんには料理も上手ですが、中学生の時は100メートルを13秒で走るほど運動が得意だったみたいです。競争してみたいです。これからは、楽しいことや辛いこともあるだろうけど、くじけずに、頑張ろうね。いつも色々頑張ってくれてありがとう。



下山 淑子 (72才)  
小倉大河(東小6年)